

九州経済サマリー Kyushu : Economic Summary

I 九州経済の位置

1. 日本のなかの九州：わが国の「1割経済」

九州は日本列島の南西部に位置し、九州島と周辺の島々および琉球諸島からなり、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の8県で構成される。沖縄は九州島から離れていることもあり、九州に含めない場合もあるが、本書では沖縄を含めて九州としている。九州は、本州と関門海峡で隔てられた独立した島々で構成されているため、域内の相互依存関係が強い。また、他の地方ブロックに比べて東京経済圏からの自立度が高く、九州に山口県の一部を加えて九州・山口経済圏を形成している。

九州の総面積は4万4,466km²、総人口は1,460万人（2008年10月）で、全国の約11.4%を占めている。域内総生産（GDP）は51.9兆円（2006年度）で全国の9.2%を占め、電力消費量、小売業年間販売額、地方自治体財政規模などの主要経済指標も全国の1割前後である。このため、九州はわが国の1割経済と概括される。

地方ブロック別にみると、人口やGDPは関東、近畿、東海の3大都市圏に次ぐ規模で、地方圏では最も規模が大きい。2006年度の九州のGDPはドル換算すると4,124億USドルで、4,546億USドル（2007年）のベルギー、4,548億USドル（2007年）のスウェーデンに匹敵する経済規模を有している。

2. アジアのなかの九州：東アジアへのゲートウェイ

福岡市は首都・東京から約1,000km離れている一方で、韓国の釜山まで約200km、ソウルまで約600km、中国の上海まで約1,000kmと、日本のなかでは東アジアの主要都市に近い距離にある。また、九州・山口内の空港からは、アジアの主要都市を中心に27の国際路線が張り巡らされており、九州・山口の港湾にはアジアを中心に113航路の外貿コンテナ定期船が就航しているなど、アジアとの交易・交流環境が充実している。

地理的な近接性もあり、九州はアジアとの経済的なつながりが強い地域である。例えば1986～2008年の九州・山口地場企業の海外進出件数1,581件のうち、75.3%は東アジア・東南アジアが占めており、2008年の九州の輸出総額に占める韓国の比率は14.8%で、全国より7.2ポイント高い。また、2008年の九州への入国外国人数も、アジア地域が93.3%と大半を占めている。さらに、トヨタ自動車など日本を代表する企業が、中国と日本との新たな物流結節点として博多港や北九州港を活用する動きが相次いでいる。このように、九州は、成長著しい東アジアと日本とを結ぶゲートウェイとしての性格を強めつつある。